

都市再生整備計画 事後評価シート(案)  
西脇市中心拠点再生地区

令和5年1月

兵庫県 西脇市

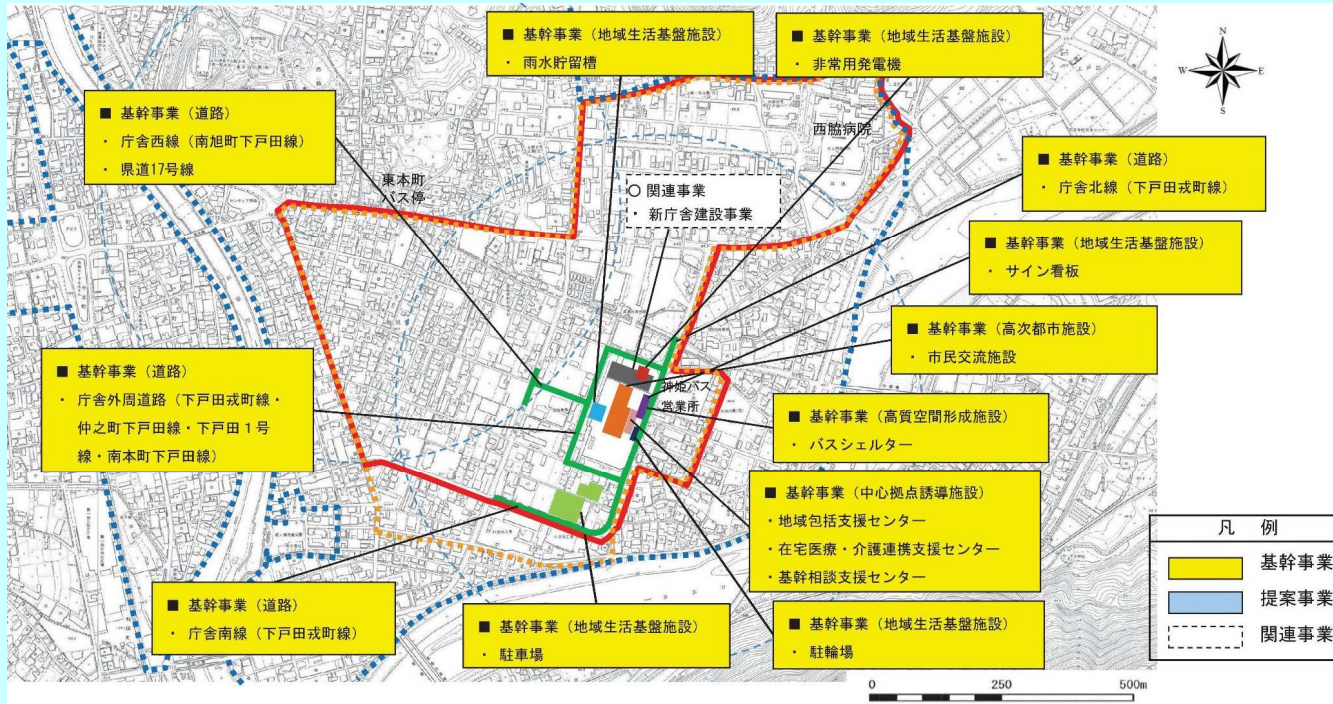
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	西脇市		地区名	西脇市中心拠点再生地区			面積	52ha	
交付期間	令和元年～令和3年		事後評価実施時期	令和4年		交付対象事業費	都市構造再編集中支援事業	国費率	50.0%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路、地域生活基盤施設(自転車駐車場)、地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(緑化施設等)、高次都市施設(地域交流センター)、中心拠点誘導施設(社会福祉施設)								
			提案事業	なし								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし								
	新たに追加した事業		基幹事業	・地域生活基盤施設(駐車場) ・地域生活基盤施設(地域防災施設)		・交渉の結果、用地確保の目途が立ったため。 ・防災強化の取組みを更に進める必要があったため。			影響なし			
			提案事業	なし								
交付期間の変更		当初	令和元年～令和3年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	なし									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	固定資産税評価額(宅地)	円/㎡	18,500	H30	18,500	R3	18,008	△	あり なし	● 新庁舎・市民交流施設等が整備されて間もないこともあり、目標値を達成出来なかったが、今後成果として現れてくると考える。	令和6年1月
	指標2	市民交流施設(多目的ホール)稼働率	%/年	44	H27	60	R3	53	△	あり なし	● コロナ感染症による影響を受けているため目標値を達成できなかった。	令和5年4月
	指標3	公共交通の延利用者数	人/年	18,090	H29	23,000	R3	38,177	○	あり なし	公共交通の利便性が向上したため、利用者の増加につながった。	令和5年10月
	指標4									あり なし		
	指標5									あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	なし										
	その他の数値指標2	なし										
	その他の数値指標3	なし										
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	まちづくり市民アンケート		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も継続して実施				
	持続的なまちづくり体制の構築	西脇市地域公共交通会議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客輸送の確保その他の旅客の利便の推進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に向けて協議を行っていく。				

## 様式2-2 地区の概要

西脇市中心拠点再生地区(兵庫県西脇市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
健康増進・市民交流の促進によるまちなかの再生 目標① まちなかの“暮らし魅力”の向上 目標② まちなかでの健康・交流促進 目標③ 公共交通の利便性の向上	固定資産税評価額(宅地)	単位:円/㎡	18,500円/㎡ H30	18,500円/㎡ R3	18,008円/㎡ R3
	市民交流施設(多目的ホール)の稼働率	単位:%/年	44%/年 H27	60%/年 R3	53%/年 R3
	公共交通の延利用者数	単位:人/年	18,090人/年 H29	23,000人/年 R3	38,177人/年 R3



まちの課題の変化	<p>○中心市街地(まちなか)のスポンジ化の進行及び都市機能、拠点施設の欠如            ➡中心市街地(まちなか)の空洞化の一つである大型商業施設跡地に新庁舎・市民交流施設の整備を行い、当該エリアの拠点性が高まった結果、旧染色工場跡地に商業施設の誘致に成功した。当該エリアの拠点性が更に高まることにより、その波及効果が今後も期待される。            ○公共交通の利便性低下            ➡新庁舎・市民交流施設の整備に合わせてコミュニティバス停留所を整備し、デマンド型交通の導入も行った。また、隣接する神姫バス営業所との連携により地域公共交通結節点の機能が高まった。これらのことにより、利便性の向上が図られ、利用者の数の増加につながっている。            ○まちなかの暮らし魅力と活力向上のための早急な対応の必要性            ➡新庁舎・市民交流施設の整備と合わせて地域包括支援センター・介護連携支援センター・基幹相談支援センターを整備した結果、周辺地域において、低未利用地を活用した集合住宅などの開発行為も行われていることから、まちなかの暮らし魅力が向上していると考えられる。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>都市機能の配置を計画的に集約配置し、コンパクトな市街地を維持しながらまちなか居住の維持・推進を行う。            コンパクトなまちづくりと公共交通の連携により、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造を形成し、持続可能な都市の実現を目指す。</p>